

No.12 トニー・クラッグ

Tony Cragg

「セルタイプス」 「オーガネル」 「オーガニズム」

北川フラムさんのコラム / 1997 (平成9) 年 2月 1日付 立川市市報記事より

シネマ・シティの壁に大きな作品と、それを挟んでその半分の作品が都合3点貼りつけられている。顕微鏡で覗いた生命体が力強く、強化プラスチックで成形されている。

トニー・クラッグはイギリス生まれで、今はドイツで仕事をしている。最初は車のホイールや日常雑貨の使い古したものを寄せ集めて、もとのかたちとはまるで違った作品を作っていた。それは鮮やかでありながら文明というものを考えさせるものだった。

今回の作品は、この新しい都市の行く末に対して、生命力の大切さを教えてくれる。生命力があつての都市なのだ。この作品には力がほとばしっている。